



地域福祉計画と阿倍野区アクションプラン

〈サロン・あべの〉4月の出会い

平成18年4月15日(土)午後1時〜4時、育徳コミュニケーションセンター2階研修室で〈サロン・あべの〉は、4月の出会いを持ちました。この日、黒田隆之さん(桃山学院大学講師・阿倍野区地域福祉行動計画スーパーパーバイザー||写真次頁)に「地域福祉計画と阿倍野区アクションプラン」というテーマでお話を伺いました。

・はじめに

社会福祉の領域では、障害者や高齢者、児童などの分野ごとに計画を作って行政がサービス

を実施してきたが、これまで地域福祉については計画がなかった。しかし社会福祉法が改正され、これからは地域福祉の時代なので、各自自治体が計画を作っていく方向となった。大阪府では2000年に社会福祉審議会

から「今後の地域福祉のあり方」について方向が示された。政令指定都市である大阪市の場合、人口が多いので、まず大阪府で大きな枠組みの地域福祉計画をつくり、各区は、それを基に地域ごとの行動計画を作ることになった。

そもそも地域福祉が求められるのは、近年、福祉サービスの役割が広がってきたが、行政の画一的な施策だけでは、すべて住民の多様化したニーズに対

応するのは不十分な面もあるので、行政と住民が協力してやっというところである。

・地域福祉行動計画のモデル事業

各区ごとに地域福祉行動計画を作ることになった。が、本当に作れるかどうか市内6区を選び、区社会福祉議会(以後は区社協)と区役所と地域の住民が話し合うワークショップ(座談会)を開いて、どのように地域福祉を進めていくかを検討していった。自分は東淀川区に関わることとなった。最近では、マンションの増加や自治会加入率の低下により、地域交流や課題解決をする場がなくなってきたのが現状である。

社協は、既存の住民との関わり
に満足するだけでなく、地域住
民の意見を反映されるような議
論の場を地域住民がつくること
への支援が必要となってくる。

・情報不足と情報の共有化

どこに支援の必要な高齢者や



障害者が生活しているのか、子
育てを手伝ってあげた方がいい
家族が住んでいるのか、地域住
民でさえ把握することが困難な
状況である。向こう三軒両隣の
時代とは大きく異なり、町が巨
大化し人口が増大するとそれら
の情報は得られにくく、地域と
して共有できなくなっている。

それらの情報は行政、地

域住民など誰が収集する
にしてもプライバシーの
問題と関係してくるの
で、慎重な検討が必要で
ある。しかし、情報がない
ために、地域のポラン
ティア活動などで支援を
行おうとしている人と支
援が必要な人をうまく結
びつけることができない
状況にある。個人的には
少々御節介でも地域住民
の方が近所を訪問して、

支援が必要な方を地域の福祉活
動に結びつける働きかけを行っ
てもよいのではないかと思っ
ている。情報が不足し、共有でき
ないというのは、要するに、地
域で何が問題になってきている
のかが見えなくなってきたとい
うことであり、地域福祉の
展開にとつて致命的な重要課題
として認識しておく必要がある。

・区レベルの地域福祉行動計

画

身近な地域の实情にあつた地
域福祉を推進するしくみづくり
のために、区レベルでの公私協
働による地域福祉行動計画（ア
クションプラン）の策定が必要
である。地域福祉行動計画は、各
種施策の身近な窓口である区役
所と、これまでも地域のネッ
トワークづくりや地域福祉の推

進に関する役割を担ってきた社
会福祉協議会が推進役となり、
市民をはじめ地域に関するすべ
ての人が力を合わせて、よりよ
い地域づくりをめざすプランで
ある。

・基本的な考え方

地域福祉行動計画の基本的な
考え方として、次の8つが必要
である。

- ①すべての市民が参加できる
- ②話し合いの場をつくる
- ③公私協働で地域福祉を推進す
る
- ④ネットワークをつくる
- ⑤地域の情報を共有するしくみ
をつくる
- ⑥さまざまな活動に市民が参加
できるしくみをつくる
- ⑦サービスを利用しやすくする
- ⑧地域の将来像を描く

・策定委員の経験から

委員をして感じたことは、地域のワークショップや話し合いの中で、意見をまとめることが難しいということ。みんな話し合いの練習をしたことがないので、自己主張が強かったり、「理屈より行動だ」という発言などもあり、意見をまとめるのは本当に難しい。

公私の協働を推進するため市民が活動しても、区役所や社協にそれを受け止める準備があるのかといえば、受け皿はまだ試行錯誤の状態である。市民は自分たちが住む地域で自主的に働きかけ、行政と協力して、つながっていくことが大切である。

・休憩の後、参加者の意見を聞きました。

お知らせ

<サロン・あべの>6月の出会い

日時…6月17日(土)午後1時~4時

内容…みらいをつくろう! みらい塾

お客さま…野田満由美さん

(NPO法人み・らいず:「み・らい塾」担当)

場所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL.06-6621-1901

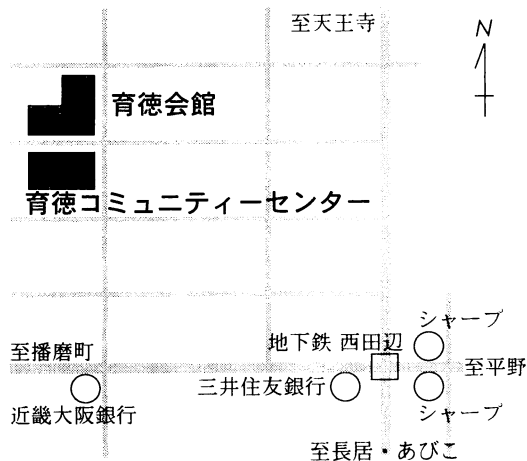
最寄り駅=地下鉄御堂筋線

「西田辺駅」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

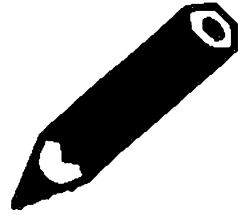
TEL06-6691-1028(富田慶子)



「茶道、華道を通して障害者や高齢者の方と関わっている。これからも頑張っていきたい」
「いろんな情報は得にくい状況だが、工夫していきたい」
「地域の行動計画は、これから、いろんな人が関わり広がっていくばと思っている」

「難しい話だと思ったが、わかりやすかった」など。
「いろいろな人と出会い、点が線となつてつながっていく
今まで議論を積み重ねてきた経験を計画に盛り込み、各地域でやっていく。地域福祉は、現状に即した新しいつながりをつくり、それぞれのグループで広げていくもの。自分たちの地域を良くしていくには、計画を実行して行動していくことが大切だと感じた(サロン・あべの)4月の出会いでした。
(参加者25人 山村貴司)

27



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者自立支援法

最近、大学では市民向けの公開講座を開いているところが多いですが、立命館大学にも土曜講座があります。ほとんど毎週土曜日に開講されていますが、入場無料、事前申し込み不要、来場歓迎というのが、魅力で、人気は上々ということです。4月中旬に、障害者自立支援法についての峰島厚生(立命館大学)の講義があったので、私は初めて聞きに行ってきました。4月は社会保険関連の講義だったためでしょうか、会場

は熱心なご老人の方が多く、気楽に参加した私も身の引きしまる思いになり、いい雰囲気の中で勉強してきました。

以下は峰島先生の講義内容です。「2003年度に戦後ずっと続いた措置制度が利用契約制度・支援費制度に抜本転換しました。しかし、1年も経たずに支援費制度は失敗であったと支援費制度を介護保険制度に吸収併させる話が浮上しました。そしてそれがだめになるとまた抜本転換・長期構想グランドデザイン案(2004年)が提案され、この4月・2006年度から障害者自立支援法による新制度に移行します。施設などの名称・機能などの抜本転換ですが、それで終りではなく、さらに3年後には介護保険との統合議論が約束されています。当事者・関係者は急激な転換に振り回されています(土曜講座だより第355号)今年4月から実施される障害者自立支援法では、身体・知的・精神の3つの障害のサービスの一元化ということで、これまで別の制度になっていた精神障害者のサービスの制度になっていくこと、これまでも含めて障害の種類に関係なく一定のサー

ビスが受けられます。しかし、これまでの支援費制度では、収入等の負担能力に応じて利用料の負担(＝応能負担)がありました。障害者自立支援法では利用したサービスの費用の1割を利用者が負担(＝応益負担)することになります。

峰島先生は、障害者自立支援法の問題点として、サービスを提供していた事業者が今までどおりに運営できなくなるといふこと、利用者は1割の利用料を支払えないということ、利用料を払えないこと、利用料を払う必要がなかった。しかし、今回の改革で障害が重いからといって多くのお金を払えというのはおかしいということです。

先日、広島県郊外の精神障害者の作業所を利用して同級生の弟さんとお話する機会がありました。彼は陶芸の仕事の手

今年も「さるん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします

伝いをしながら、作業所に通うのを楽しみにしています。しかし、作業所を利用するための1割負担は経済的に困難なので、利用をやめなければなりません。作業所で、仲間や職員の人達と話をすることが彼の楽しみや1つであり、その交流がなくなるのが寂しいと語っていました。彼の家族はよく家族旅行して仲がよいのですが、その家族にとっても、今回の制度改革は不安であるかと思えます。

峰島先生は、「3年後に予想される障害者の介護保険統合議論でも、財政問題だけで統合というのは問題である。障害者と老人の独自の問題を尊重することが基本であるが、同じ問題点を見つけることも大切である。利用料応益1割負担は障害者だけでなく老人にとっても問題である。障害者は老人や社会福祉関係者と一緒になって声を上げていくことが大切である」と述べられました。私は今回の障害者の制度改革を社会保障改革の一部として、障害者だけの問題ではなく私たちの問題として考えることも必要ではないかと思いました。

(定藤邦子)

人は誰でも多かれ少なかれ「こだわり」というものを抱えているのではないだろうか。私も枚挙に遑がない程「こだわり」がある。ここにその主な「こだわり」を記しておく。

まず洋服でもズボンでも下着でもすべて右手(足)から先に通すことにしている。別に深い意味はないのだが、気がつくといつのまにやらそうせずにはおれなくなっていたのである。

次にもう季節はズレになってしまったが、私は冬の間よくおでんを食べた。ごぼてん、ちくわ、厚あげ、こんにゃく、大根、じゃがいもなどを鍋に入れてぐつぐつ煮るとどの具材にも味がしみ込み、何を食べてもやわらかくて旨い。そんな中で私はいつも茹で卵は最後に食べるのだ。なぜだろう。おそらく私は茹で卵が大好きなので、

しまいまで食べずにおいておくのかも知れない。

現在はパソコンブームで、パソコンを使えなければ時代おくれのように思われている。

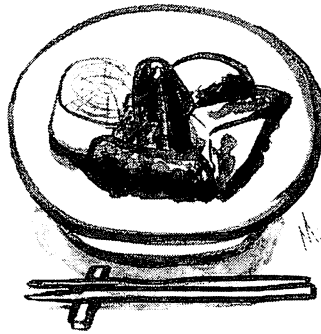
実は私もパソコンでホームページやブログを設けて、自分の書いた文章を他の人に読んでもらいたいと思って数年前にパソコンを買ったのである。

ところが毎日パソコンの画面に向かって1字1字文字を打っていると、すぐに目が疲れ、手がしびれてくるのだ。それでいつしか嫌になり、やめてしま

い、今では肉筆で原稿を書いた方が早いのである。パソコンはもうコリゴリだ。「こだわり」というのは決して良いとは思わないが、自分の意志を通すためにもある程度「こだわり」も必要ではないだろうか。

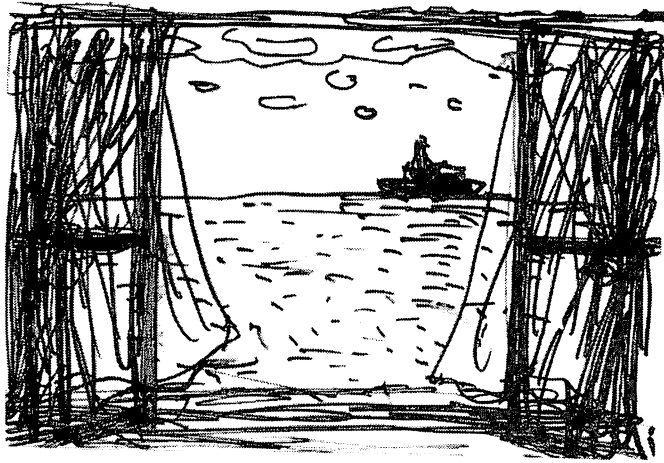
晴れのち晴れ 92

こだわり
稲垣 恵雄



忘れる力

人生には不愉快なことがつきものだ。その不愉快なことを力まかせに押しつけることも必要だろうが、それをそのまま「忘れてしまふ」ことが最も賢い方法である場合もある。



たとえば自分が悪かったにしても、それを徹しい言い方で注意されると、どうしても面白くない。「そんな言い方は無いだろう」と一言いいたくなるが、相手が知らない人だったりすると、あとでどんな災難が起こるか分からないし、逆によく知っている人だったとしても、そんな抗議をして良い結果になることは稀だと思う。

傷ついたのは自尊心だけであって、そのまま放っておいても、それ以上何の害も無い。そんな場合には「忘れてしまう」に限る。忘れてしまえば、自分が傷ついたことも忘れるし、相手も許すことができる。そういえば「このことは忘れましょう」というのは、互いに許しあう言葉だった。

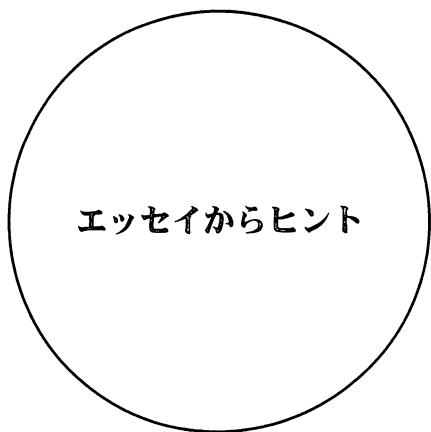
私も五十年近く生きてきて、後悔していることも、いろいろある。ああすれば良かった、こうしていたら、もっと違っていたかもしれないと悩んでいる。こういう後悔には全く解決方法がない。過ぎ去ったことは取り返しが

きかない。そんな後悔にも「忘れること」は良き薬だ。忘れてしまえば、後悔もない。

私たちは「忘れる」ことによっていぶん救われているはずである。それに気づかないのは、まさに「忘れてしまった」からである。どれほど忘れてしまったかは、忘れてしまったのだから思い出しようがない。

たとえば、子どものころの辛かったことの大半は思い出そうとしても思い出せないのではないか。「いやいや、忘れるものか」と言う人でも、実際には辛かったことの半分も覚えていないはずだ。忘れてしまった半分は思い出せないで、覚えている分だけがすべてだと錯覚してしまうのだろう。

たとえ覚えていても、私たちは事実を覚えていざというときに、そのときの感情を覚えていることを区別しなければいけない。「あのころ、こんな辛いことがあった」という事実は覚えていても、その辛さの実感は忘れてしまうことが多いのだ。その結果、あたかも他人の物語を耳にするようにしか自分の経験を思い出さない。だから「あのころは辛かった」



エッセイからヒント

こんにちは。

今年の4月は平年よりかなり低温な状態で、春の季節にふさわしくない月となりそうですね。お変わりないものと思われま

す。サロン紙238号を読んで、改めて3月18日の出来事をよみがえらせています。講演いただいた岡先生はもちろんのこと、参加された方々の様子が思い浮かんで

きます。私自身の所感を読み直し、何か伝えたいものが欠けているような気もしておりますが、原田さんの原稿とドッキングしている事に嬉しく思っています。

その他で感じた事は、岡先生のエッセイ「思いの強さ」で表現されている、団体が継続されていくヒントを言い得たものとして参考になりました。

もうひとつ、「サロンと私」が3月号をもって終わるようですが、また違った形で復活される事を期待しております。同感する思いと物足りなさを列記されておられる、うえひらゆきお様の期待にこたえられぬ状況であっても継続してほしい、「サロンと私」でした。

改めてサロン紙の編集に関わっておられるみなさん方にお礼申し上げます。

(吉岡 克彦)

などと、まるで懐かしむように過去を語りることができる。

人間関係で嫌なことがあっても、最近の私は「どうせ忘れるだろう」と自分に言い、実際、忘れてしまうのである。そしてそれが一番楽で合理的な解決方法でもあるとも考え始めた。下手に弁解したり、仕返しをしたりしようとしても、かえって双方が傷つき、良い

結果にならないと思う。

私は「忘れること」を力だと感じ始めたのである。嫌なことがあっても、忘れてしまうことができると思えば、これも生きる力になるのではないか。劣等感や罪悪感をもつことがあっても忘れてしまえば良い。そうやって足跡のつかない歩みを進めていくように、ふんわりふわりと軽く生きていくのではない

か。

私の父は高齢のため、すべてを忘れる病にある。そんな父に「忘れることも力になる」と伝えられたらと思う。

(知)

今年も「さろん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします

赤松 昭

「谷間」に
こだわり続けて

24

「若者と家族の会の歩み(その5)」

その後、会の外へ向けての働きかけは、さらに広がりを見せることになりました。そのひとつが差別的出版物への抗議活動でした。1998年、大手出版社のS社が「殺人と尊厳死の間で」という本を出版します。この本はある脳外科医が匿名で、遷延性意識障害者を医療の中でどう扱うかを提言したものです。この医師は意識障害者のことを「ベジ」(植物を表すベジタブルを略した医療の

業界用語)と呼び、次のように書いているのです。

ベジは社会的には、百害あって一利なしの存在である。手術による積極的治療を行ってベジをつくるよりは、患者をすんなり逝かせたほうが、社会にとつて利益になる。また、消極的治療の結果として患者がベジになった場合も、その捨て方が人道的でさえあれば、患者を早く捨てるのが社会の利益となることをここで改めて確認しておく必要があるだろう。

なるほど実際の医療の中で、こうした治療放棄は秘密裏に行われているのかもしれませんが。しかし、現実はどうだからといって言つて良いことと悪いことがあります。それに私たちは「もう助かる見込みはない」「よくて一生植物状態」と医師に言われながら、その後回復した体験をもっています。もし、医師の言葉そのままに治療を断念していたら、助からなかった命の重みというものを肌身で知っているのです。もちろん、わたしたちは出版社に猛烈な抗議を行いました。著者と直接話し合いの場をもつよう要

今年も「さろん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします

求しましたがそれは拒否されました。それでもめげずに何度となく抗議活動を行い、最終的には、私たちの主張を盛り込んだ本を新たに出版することでケリをつけたのでした。

ちようど今(3月末)、尊厳死のことが話題になっていきます。「苦渋の選択をした」医師には同情的な意見も少なくないようです。しかし、私はことさら「死」のみに尊厳を言うことの恐ろしさを感じます。なぜなら、「尊厳ある生」の結果として満足のいく死に方があるのであつて、決して他人(社会)が個人の死に意味づけをしてはいけない、と考えるからです。それを許すと、弱い立場にある人間は殺されかねません(事実これまでの歴史の中ではそうでした)。事態は尊厳死の法制化まで進みかねない状況ですが、その時はまた、抗議活動を行うことになるでしょう。(会の歩みの話はまだ続く)

美智子のこんな話

岸田美智子

「部落解放」5月号を読んでみて!

4月より施行された障害者自立支援法の影響が具体的に私達の生活の中にあらわれてきていると思います。授産施設や作業所なども、給料をこえる負担金が出てしまう事もあり、負担金の不払い運動も起きはじめています。考えてみれば、働きに行つて給料よりも高い利用料をとられるなら、誰が働きたいと思うでしょう。それならば在宅でぶらぶらしていた方が良くという事にもなるでしょうし、親や家族からも「そうしなさい」と言う

今年も「さろん亭」が開店します
そろそろ品物のご用意、お願いします

意見が出てもしかたない状況にどんどん追い込まれて行きます。

このような自立支援法の問題をいろいろな障害者の立場で、

座談会をして、特集として掲載されているのがこの「部落解放」5月号です。私も参加していますし、他には盲ろう障害者の田中康弘

さん、視覚障害者の三原ひろみさん、精神障害者の森実恵さん、聴覚障害の吉川昭作さん、共に皆さん自立生活支援センター・ピアドアのピアカウンセラーです。コーディネーターは、この分野では、有名な芦屋女子短期大学教授 杉本章さんです。

他に、楠敏雄さんの「障害者自立支援法の基本問題と私たちの課題」という特集と「グループホームに大きなしわ寄せ」などの特集が掲載されています。皆さん、ぜひ読んでみてください。

定価11630円(送料84円)

出版=解放出版社

TEL 06-6561-5273

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MYID くまいどく

担当：岸田美智子

T 558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-1 キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

メール c1-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

ありがとうございました。

カンパ、お菓子・コンサートチケット・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

カスタネット、奥田真祐美、風智恵子、

高浜吉増、田辺徳孝、中野克也、東谷和代、

平岡太、松本洋子、森公子、

その他の方々。(敬称略)



衣…元気になる幸せ
食…食べ物がおいしくなる幸せ
住…インテリアで色の効果利
用・精神安定の幸せ

夏に向かって、みなさん衣替え、インテリアのカーテン・のれん・ラグなどの模様替えを楽しんでいらっしゃると思います。四季のある日本ならではのですね。気分が一新します。素材はもちろん、必ず夏らしい、涼しいと感じる色合いを自然に使っています。

色から来るイメージにはどな

たも、共通したものがあるよう
です。

☆白…清潔、純粹、夏らしい、
軽やか。反対に黒は重々しく
厳粛。

☆ピンク…かわいい、やさし
い、若々しい。

☆青・ブルー…空の色、不安の
とき、悲しいとき青空を見上
げます。

☆緑…目の疲労を癒す。森林浴
で緊張をほぐす。

人は物体から反射された光
の刺激により、色を感じるこ
とが出来ます。私たちが普段見
ている色は目で見えている(脳を
刺激)だけでなく、皮膚でも見
えているのです。皮膚にはセン
サーがあります。これがよく言
う「肌で感じる」ということで、
皮膚が識別しています。

色それぞれ持っている性質
を認識し、色の効果を信じて、
生活の中で色を活かす努力を
してみましよう。その色が好き
になると、自分自身も変わっ
てくることに気づき、ますます生
活の中で色を上手に活かす工
夫が幸せを呼び、オシャレに暮
らすことができます。

暖色…オレンジ・赤・黄

=自律神経を刺激しやす
くする。

寒色…青・緑

=自律神経を刺激しにく
く精神を落ち着かせる。

青いタオルをトイレにおくと
下痢が止まり、黄色いタオルは
便秘が治る(頭の中でイメージ
するだけでもOK)。不眠でお悩
みの方は、青い敷布や枕元のラ
ンプを青い光にすると効果があ
り、逆にピンク系では寝付きに
くくなります。また高血圧の人
もブルー利用で血圧を下げる効
果があると言われます。

白という色は放射エネルギー
を肌に透過して、自律神経を活
性化させるので下着としては最
適です。が、洗面所やトイレの
白では清潔感はありませんが冷
たい感じがしませんか?トイレは
アイボリーが最適です。花や小
物で四季・家族構成を演出し、
タオルと共に周りのアイボリー
系を引き立て、より明るく、楽
しい感じを与えるところであり
たいものです。

次回は色と性格のお話をした
いと思います。

ゆい・まある (沖縄の方言)
つながり・助け合い・お互いさま



—問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織—
〒567-0048茨木市北春日丘4-9-24井上101
TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115
E-mail:tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

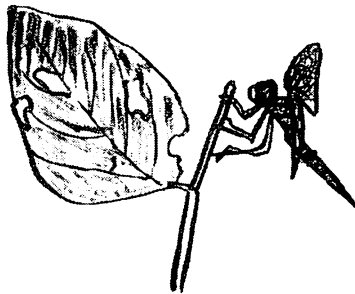
音訳グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第238号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 「サロン・あべの」紙は、第1号より第238号までそろっています。
- (b) 「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「くサロン・あべの」平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳DJ)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

メールもいいけど、
手紙もネ。



サロンの
一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-



SALOON

6月はどここのサロンの、どのテーマがお気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」6月の出会い

日時：6月18日(日)午後1時30分～4時
 内容：くつろぎのライブタイムを貴方に！
 -ライブの空間、楽しみながらピッコロベースで聴くジャズ-
 ゲスト：伊藤修二氏(ピッコロベース奏者)、東淀川区在住ジャズメン
 会費：なし
 場所：淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
 E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」6月の出会い

日時：6月24日(土)
 内容：未定
 場所：未定
 問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
 ☎06-6494-0635
 中本 ☎090-9864-9678

■「サロン「アイ」」6月の出会い

日時：6月10日(土)午後1時30分～4時
 内容：グループホームについて
 パネラー：森 純一(もりのぶかず)氏
 (グループホーム「めぐり」世話人)
 会費：なし
 場所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
 大阪市生野区勝山北3-13-20
 問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101
 ○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
 ☎06-6757-8574

■「サロン・にし」6月の出会い

日時：6月10日(土)午後2時～4時
 内容：知的障害について学ぼう！パートⅡ
 場所：西区在宅サービスセンター第一会議室
 大阪市西区新町4-5-14
 ☎06-6539-8075
 会費：なし
 問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》6月の出会い

日時：6月10日(土)午後1時～4時
 内容：動物四方山話
 パネラー：天王寺動物園動物飼育係
 会費：300円
 場所：あびさんサロン
 大阪市住吉区我孫子3-10-16
 申し込み・問い合わせ先：
 山本篤江 ☎06-6692-8411
 携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」6月の出会い

日時：6月4日(日)午後1時30分～4時
 内容：手作りおもちゃ
 -紙皿でにわとりとひよこの親子を作ります-
 パネラー：「のぞみの会」の皆様、
 会費：なし
 場所：鶴見区民センター3階
 大阪市鶴見区横堤5-3-15
 問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
 奥井 ☎06-6913-7070

■「サロン北」6月の出会い

日時：6月17日(土)
 午後2時～3時30分(開場1時30分)
 内容：サキソフォンの響き
 -サクセスを楽しもう-
 参加費：無料
 場所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
 大阪市北区本庄東2-6-11宝来堂ビル1階
 問い合わせ先：障害者福祉作業センター
 「たけのこ」内 ☎06-6372-8074

■「サロンいたみ」6月の出会いはお休みです。

<サロン・あべの>VOL.239 発行：平成18(2006)年5月20日 定価¥100
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます